

【行動目標】

オフィスや事業所の省エネルギーや省資源をすすめよう

ウォーム・ビズやクール・ビズなど控えめな冷暖房の実施や、節電など二酸化炭素の排出を抑制する取組を進めます。また、省エネルギーの取組や新エネルギー利用設備・機器の開発・導入、製造工程での廃棄物を利用するゼロエミッションなど環境の負荷を低減する取組を進めましょう。

北海道で排出される二酸化炭素のうち、事業活動に伴う排出は約70%、オフィスでの活動に伴う排出は約13%です(平成15年度)。また、一般廃棄物の約35%はオフィスから排出されています(平成17年度)。

オフィスにおける照明、パソコン、コピー用紙等の使い方を見直すとともに、ウォーム・ビズやクール・ビズ、環境に配慮した製品の購入などの環境負荷を低減する取組を進め、オフィスからの二酸化炭素・ごみ排出量の削減を目指します。

また、省エネルギー型設備・機器や新エネルギー利用設備・機器の開発・導入、物流や製造等に係るエネルギー効率の向上、生産・加工工程等で発生する副産物や循環資源の再利用・リサイクル、商品販売における簡易包装などによるごみの発生抑制などを進め、事業活動に伴う二酸化炭素・ごみ排出量の削減を目指します。

【主な行動】

〇オフィスでの取り組み

室内、廊下等の照明の使い方を見直そう

支障のない範囲で、日中は窓側の照明を消灯する
支障のない範囲で、昼休みは照明を消灯する
使用していない部屋は消灯する
残業時には不必要な照明を消灯する
会議室、トイレ、給湯室等は、未使用時には消灯する

パソコンの使い方を見直そう

節電モードの設定を行う
昼休み中は電源を切る
外勤等で長時間使用しないときは電源を切る
退社時には、ノートパソコンの電源プラグを抜く

その他の電気製品の使い方を見直そう

退社時には、電気ポット、温水暖房便座等の電気機器の電源を切る
会議室使用後は、電気機器の主電源を切る

紙の使い方を見直そう

片面使用済用紙をコピー機、FAX、プリンター等で再利用する
会議資料等の両面コピー、両面プリントを徹底する
電子メールの利用、資料のペーパーレス化・共有化によりコピー枚数を減らす

環境に配慮した製品を購入しよう

事務用機器等の購入やリースにあたっては、省エネルギー型の商品を選定する
エコマークなどの環境ラベル認定商品や、グリーン購入ネットワークデータベース掲載商品、リサイクル製品など、環境に配慮した製品を購入する
車の購入やリースにあたっては、低公害車など、温室効果ガス排出量の少ない車両を選定する

ごみについて見直そう

物品はできるだけ修理しながら使用し、ごみの排出を抑制する
ごみの分別を徹底し、資源ごみのリサイクルと資源化できないごみの減量化を進める

エレベーターの使い方を見直そう

3階程度の上り下りは階段を利用する

車両の運転を見直そう

車をなるべく使わない
エコドライブを行う
(例)
・アイドリングストップを行う
・発進時にはアクセルをふんわりと踏む
・車間距離に余裕をもって加速の少ない運転をする
・止まるときは早めにアクセルから足を離す
・カーエアコンの温度・風量をこまめに調節する
・暖気運転の時間はなるべく少なくする
・出かける前にあらかじめ行き先や走行ルートを計画する
・タイヤの空気圧をこまめにチェックする
・不要な荷物を積まない
・交通の妨げになる違法駐車をやめる

環境負荷を低減する取組を実施しよう

夏はクール・ビズ、冬はウォーム・ビズに取り組む
ノー残業デーを実施する
自家用車通勤を控えるノーマイカーデーを実施する
在宅勤務制度を導入する

施設管理での取り組み

施設の維持管理を見直そう

ISO、HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)、エコアクション21などの環境マネジメントシステムの認証を取得する
環境配慮の取組状況を定期的に点検し、エネルギー使用量や廃棄物発生量などの現状を把握する
ESCO事業の実施やBEMS(ビルエネルギー管理システム)の導入などにより、建築物の省エネルギー化を進める

<p>省エネルギー型設備・機器や新エネルギー利用設備・機器などを導入する (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コージェネレーションシステム ・雪氷冷熱エネルギー使用設備 ・天然ガス使用設備 ・太陽光発電設備 ・バイオガス発電設備 ・風力発電設備 ・温泉・温排水利用設備 ・燃料電池 ・ヒートポンプ ・熱交換器 ・蓄熱式空調システム ・高効率・省エネルギー照明設備 ・バイオエタノール、BDF、木質ペレット等のエコ燃料利用機器 ・自動制御設備(インバータ制御、VAV制御、VWV制御等) ・急激な負荷変動を低減するアキュムレーター など <p style="margin-left: 40px;">* VAV制御：送風機の電力量を節減するため、各ゾーンを最適風量に設定し、空調機風量の回転数制御を行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">* VWV制御：ポンプの電力量を節減するため、変水量送水圧設定制御を行い、空調負荷が低いときには、設定圧力を下げるようポンプの回転数制御を行う。</p>
<p>空調は、外気温度などを考慮して適切な温度管理を行い、不必要な使用を控える。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調の温度管理にあたっては、業務に支障のない範囲で、夏は高め、冬は低めに設定する(冷房28、暖房20など) ・外気温度等を考慮して、空調の間欠運転を行ったり、使用期間・時間を制限する ・部分空調方式を採用するなど、空調範囲を制限する など
<p>人の通行の多い出入り口には風除室を設け、暖房・冷房の効率を高める</p>
<p>照明は、日照時間等を考慮して適切に管理し、不必要な使用を控える (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに日照時間等を考慮して、照明の点灯・消灯時刻を調整する ・頻繁に使用しない場所等の蛍光灯や電球を間引きする など
<p>看板、広告塔等の過剰なネオン、照明は控え、日照時間等を考慮して、使用時間を設定する</p>
<p>エレベーターは、適切に管理し、不必要な運転を控える (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない時間帯は、使用台数を制限する など
<p>食品の冷蔵冷凍ショーケースを適切に管理する (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過度に冷やしすぎないなど、適正温度で使用する ・閉店時には、ショーケースにカバーをかけ、冷気漏れを防ぐ
<p>敷地内や建築物屋上の緑化、緩衝緑地帯の整備などに努める</p>

〔事業活動での取り組み〕

製品設計、製造・施工を見直そう

使い捨てではなく、長期間使用できる商品を提供する
耐久性にすぐれた工法を採用する
リサイクルが容易な構造設計を行う
高断熱・高气密などを考慮した、北国の気候風土に適した設計を行う
CASBEE（建築物総合環境性能評価）や環境共生住宅認定の取得など、環境に配慮した建築を進める
製品には、使用素材や適切な廃棄方法などを記載する
製造工程の効率化を図り、廃棄物発生量を低減する
エネルギー効率の高い製品や、新エネルギーを利用する製品などを研究・開発する
環境負荷が少なく、耐久性の高い工法や資材を研究・開発する

原材料の選定や調達を見直そう

循環資源を原料としているもの、生分解性のもの、燃やしても有害物質が発生しないもの、廃材の発生が少ないもの、リサイクルが容易なもの、耐久性にすぐれているものなど、環境負荷の少ない原材料を選定する
輸送にかかるエネルギーの少ない、地元で生産されている原材料の調達を進める
炭素の貯蔵庫であり、森林の育成に寄与する道産木材の利用を進める
生産量や売上げの見通し、在庫量を考慮した調達計画を立て、無駄な調達をなくす

輸送や物流を見直そう

効率的な配送ルート、配送時間の設定を行い、走行距離・時間を短縮する
都市間の長距離幹線輸送や、交通の混雑する都市内での輸配送を他社、関連会社などと共同で行う
帰り荷の確保に努めるなど、空荷走行を低減する
中長距離輸送にあたっては、鉄道や海運を利用する（モーダルシフト）
アイドリングストップ装置など、環境負荷を低減する装置を取り付ける
梱包資材には、再利用、再生利用が可能なものを使用する
車両のタイヤの空気圧を適正に保つなど、定期的な点検、整備を行う

広告を見直そう

チラシ、パンフレット等の過剰な発行は控える
チラシ、パンフレット等の作成にあたっては、再生紙や植物油を使用したインクなどを使用する

環境に配慮した製品の販売促進を進めよう

環境に配慮した製品について、特設コーナーの設置や、省エネ効果等の掲示などを行う
環境に配慮した商品の割引期間やノーレジ袋の日の設定など、環境配慮に関するキャンペーンを実施する

レジ袋の削減を進めよう

レジ袋辞退のポイント制度やノーレジ袋の日の実施など、レジ袋の辞退へのインセンティブとなるしくみを設ける
適切な大きさ、枚数のレジ袋を従業員から手渡すなど、レジ袋の過使用を防ぎ、使用量を削減する
マイバッグの販売や、そのまま自宅に持ち帰ることができる商品かごのレンタルを行う
レジ袋の厚さを薄くし、レジ袋原料の使用量を削減する
不要となったレジ袋を店頭で回収し、再資源化する

容器・包装材の削減を進めよう

商品をばら売りや量り売りすることにより、トレーやパックなどの包装材を削減する
自宅用・贈答用、店内での飲食・持ち帰りなど目的にあわせた容器・包装を使用する
商品の包装は、簡易包装に努める

資源の回収を進めよう

資源ごみ回収ボックスを設置する
使用済みの製品や部品などは、回収ボックスを設置するなどして、自主回収する

循環資源等の再利用、リサイクルを進めよう

分別を徹底する
仕入れ、生産・加工工程、施工過程などで発生する副産物や、循環資源等を再利用・リサイクルする

アフターサービスを進めよう

修理、アップグレードサービスの提供などにより、製品の長期間使用を支援する
